

# まなびの森



## 主体的に動くと対話が生まれる

6月21日、児童生徒会主催の全校レクがありました。これは、児童生徒会の今年度の目標である

HOME (H:一人一人が、O:お手本になって、M:みんなで、E:エンジョイ) の実現のために行なう

ものです。全校児童生徒を縦割りのチームに分けて、クイズウォークラリーや宝探しかくれんぼを楽しみました。ここで特筆すべきは、**①児童生徒会の働き②中学生・高学年の動き**です。一つの行事を企画・立案・実行するためには、参加者にはわからない前々からの準備があります。何の目的で、どんな会をするのかを決めたら、役割分担。司会進行・プレゼン・ゲームの準備物作成・チーム編成・広報活動 etc. 当日の成功をイメージしながら、しっかりと対話を重ね、試行錯誤を重ねながら、準備を進めていました。当日の縦割りチームの中心となった中学生・高学年もとても頼もしく、低中学年をリードしつつも、その子供達が自分達で答えを見つけられるように、考えながら動いていました。自分達で楽しんでいるとき、自分達がやりたい・進めたいと思っているときには、必然的に主体的な行動が生まれます。複数の児童生徒

で物事を成し遂げるときには、おのずと

本校の学校教育目標である「自分を育て 人とつながり 自己実現する児童生徒の育成」の一つの成果が感じられました。



進行中の「折り鶴プロジェクト」の様子です。日本赤十字社100周年企画で「100万羽の折り鶴からノートを作ってネパールの子供達に贈ろう」というものです。これについては、小学5・6年生がプロジェクトリーダーを担っています。本校で推進するための企画・立案は、5・6年生だけで考えました。プレゼン・分担・広報活動・折り鶴の回収・送付 etc. 全校で1000羽を目標に決めてスタートしましたが、5・6年教室ではあっという間に200羽以上を折り終わり、「もっと折り鶴を折りたい」という意見が出ました。他の学級に説明に行った後「もっとやりたい」という声をたくさんもらったので、6年生が学校を代表して日本赤十字社に電話をかけ、2000枚の折り紙を追加注文することになりました。これは、5・6年生の実行力の賜物です。「自分達がやりたい・進めたい」と思ってくれたからこそその行動でした。

学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の姿が少しずつ実現しています。毎日の授業で力を付け、児童生徒主体の次の活動へとつなげます。

